

史跡鏡山城跡見学会資料

平成 23 年 3 月 6 日

鏡山城の歴史

史跡鏡山城跡は、山口の守護大名大内氏の安芸国支配の拠点として築かれた城で、築城の時期は、南北朝時代の後半から室町時代にかけてと考えられています。

室町時代から戦国時代にかけての守護大名の地域支配の拠点的城市の好例として、平成 10 年 1 月 15 日に国史跡に指定されました。

これまでに本格的な発掘調査は行われていませんが、昭和 61 年、広島県によって遺構の確認調査が行われています。

鏡山城のある西条盆地は、室町時代には東西条と呼ばれ、大内氏の領地となっていました。東西条の範囲は大内氏の勢力伸長とともに拡大し、志和、高屋、造賀を除く旧賀茂郡域のほぼすべてと、旧豊田郡の安芸津や安芸郡の熊野にまで及ぶ広い範囲でした。

東西条には大内氏の代官が置かれ、「東西条代官」または「東西条郡代」と呼ばれて鏡山城に在城していました。東西条代官に任ぜられるのは、守護代クラスの重臣で、大内氏が東西条をその他の分国と同様に扱っていたことを示しています。守護代が置かれなかったのは、大内氏が幕府から安芸国または東西条の守護職を与えられていなかったためです。

東西条代官は大内氏の重臣で、大内氏の政務にも携わっていましたので、必ずしも鏡山城にいたわけではなく、山口と西条を行き来していたようです。東西条代官が留守の間、その代わりをするのが、「小郡代」です。東西条の場合、他の国の小守護代に相当します。小郡代は、その任料として、三永方に 40 貫の領地を与えられていました。

大永 3 年（1523）、出雲の尼子経久が安芸国に進出し、鏡山城を囲みます。当時、東西条代官だった陶興房は山口に在り、留守は小郡代と思われる蔵田備中守房信が守っていました。が、不意を突かれた鏡山城は、落城してしまいます。尼子経久は、安芸国を席卷し、一旦備後国まで引きます。鏡山城を落とすことで、大内氏に対抗できる勢力であることをアピールすることが目的だったと思われ、その企図は安芸国をほぼ尼子方としたことで、成功したといえるでしょう。

反撃に出た大内氏は、大永 5 年（1525）年頃には、東西条を奪還しますが、その拠点は、さらに峻嶮な飯田の和城に移されました。鏡山城はそれに伴って廃城となったようです。

鏡山城跡の構造

史跡鏡山城跡は、山頂の「御殿場」と呼ばれる 1 郭、その東の「中のダバ」と呼ばれる 2 郭、2 郭の東にあって「下のダバ」と呼ばれる 5 郭をその中心部とし、2 郭の南に在り、「馬のダバ」と呼ばれる 3 郭と 2 郭の北側にある「北郭群」を 2 郭の防御に充てています。3 郭の東南には南に大きく張り出した 4 郭を置き、大手郭としています。ここは三方を石垣で囲み、南麓に至る道が西に下っています。

山頂部郭群は山の中腹をめぐる畝状堅堀群によって山麓部と遮断されています。南山麓部には、「南郭群」が広がり、中心部には石垣をめぐらした門跡を伴う郭もありますが、どのような性格の郭群であったのか、正確にはわかりません。

5 郭は、2 郭と隣接していますが、2 郭とは約 13m の切岸で隔てられ、直接通路でつながっていないなど、独立した空間となっています。5 郭には約 12m×8m の長方形の基壇状の遺構が残り、大型の建物があつたことが推測されます。

城跡の東西は規模の大きな堀切で遮断されていますが、今回の調査によって堀の城内側に台形の基壇が確認され、堀に橋がかかっていたことが明らかになりました。城内と城外をつなぐ橋の存在が明らかになったことで、連絡経路や城の守備にかかわる思想を解明する手がかりがつかめたといえるでしょう。

メモ

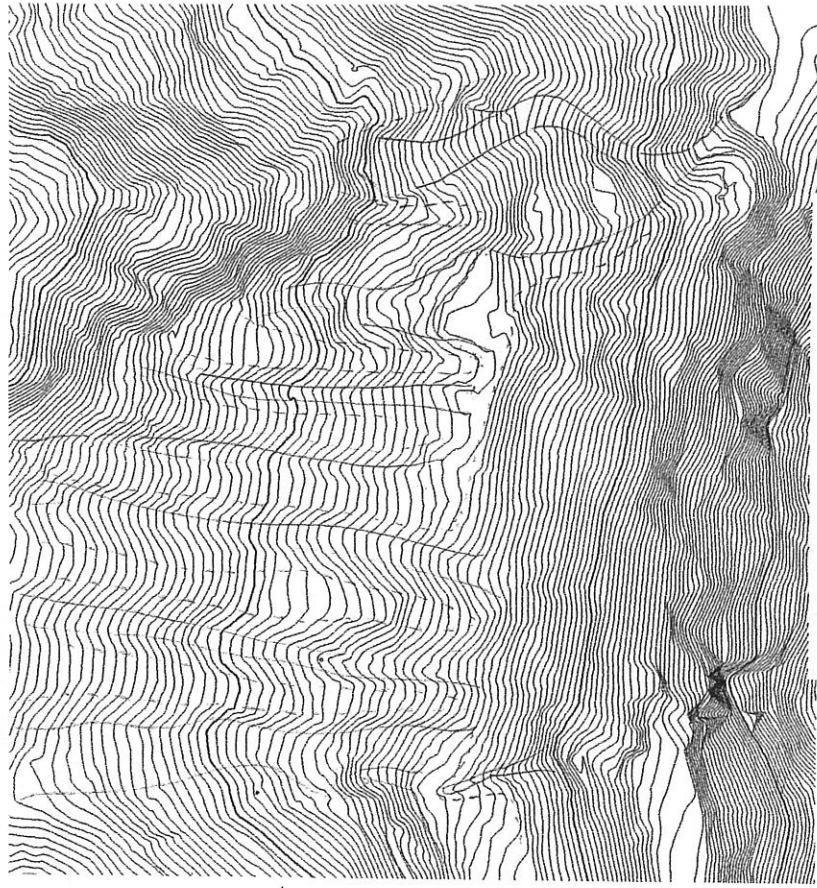
大内氏…古代以来の周防国の豪族。南北朝時代に安芸国東西条を領有。室町時代には幕府に重用され、中国地方西部から北部九州に勢力を張った。山口を中心とした華麗な大内文化で知られ、朝鮮や明との関係も深かった。

守護代…室町時代の守護は、原則在京都が義務付けられていたため、分国には重臣を守護代に任じて、政務を代行させていた。守護または守護代が拠点とした場所が「守護所」。

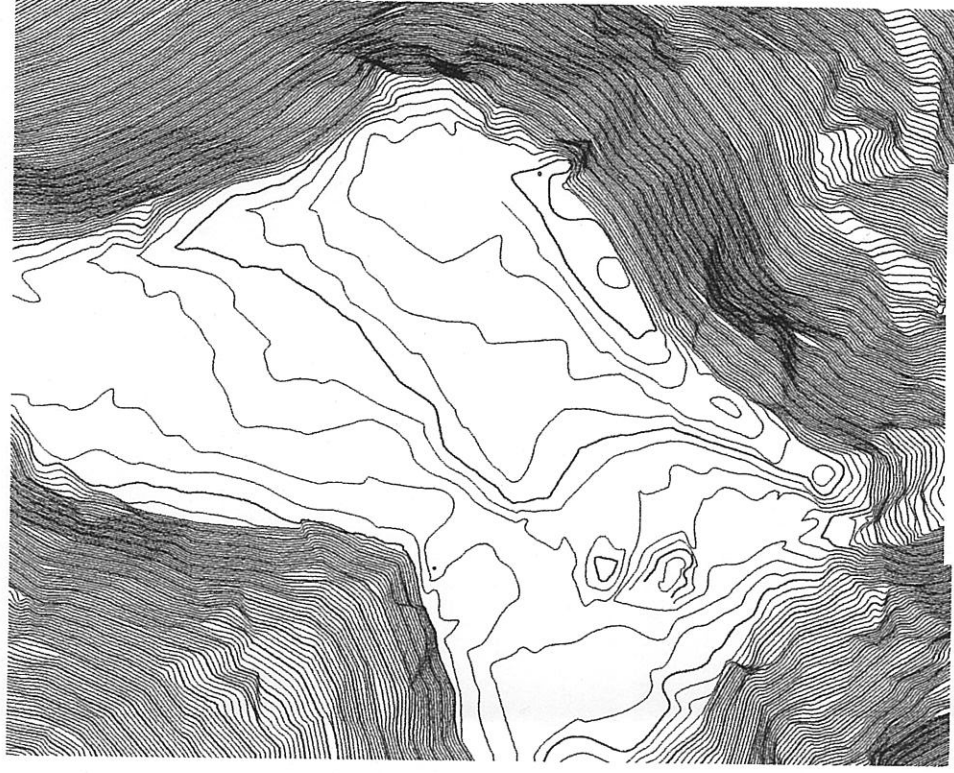
郭… 城の平坦な場所。建物を建てたり、守備の際の足場にしたりするための場所。「曲輪」とも書く。中世には中国地方では「丸」と呼ばれていた。

堅堀… 山腹に設けられた堀。等高線に対して直角に掘られている。連続するものを「畝状堅堀群」と呼ぶ。

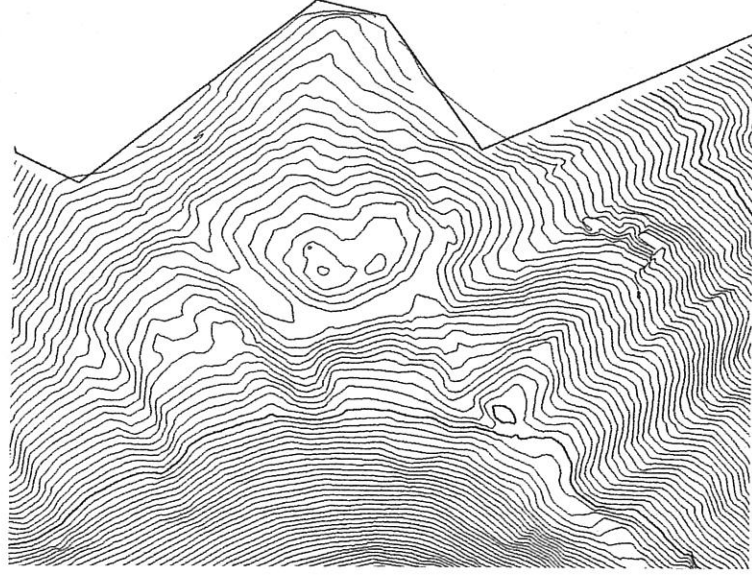
切岸… 城壁に相当する崖状に加工された急斜面。「沙彌洞然長状」には「城郭格護之儀、第一実、二番粮、三番岸と上古申伝候哉」とある。



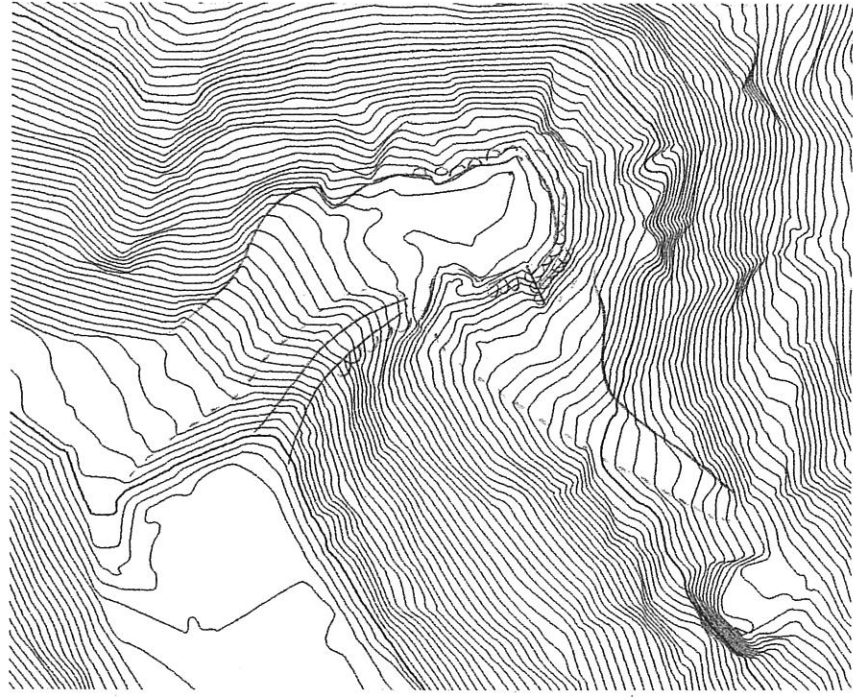
北側畝状堅堀群 (1 : 300)



5 郭詳細図 (1 : 300)

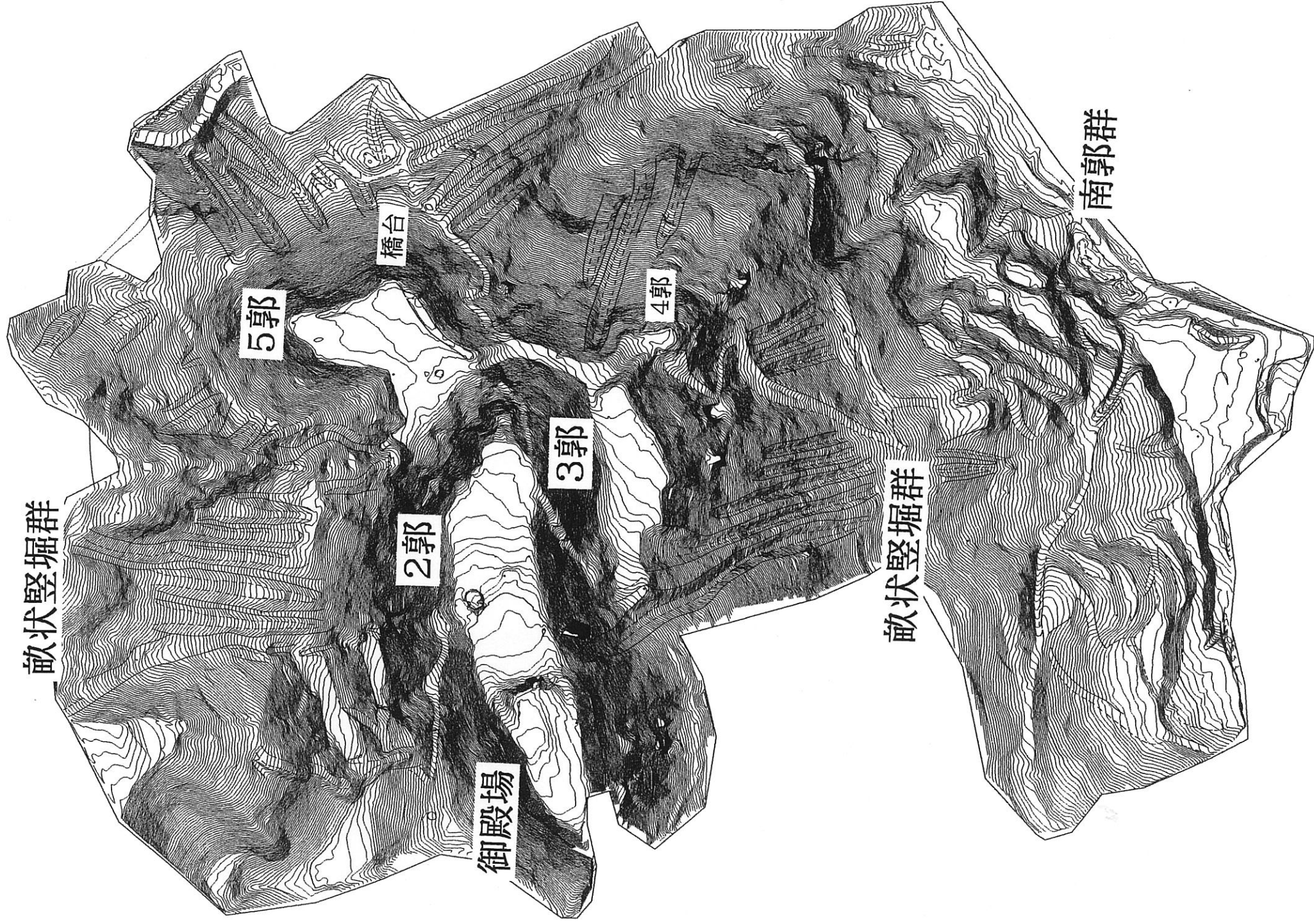


東側堀切及び橋台拡大図 (1 : 300)



4 郭拡大図 (1 : 300)

畝状豎堀群



橋台

5郭

2郭

3郭

4郭

御殿場

畝状豎堀群

南郭群